

高齢者疑似体験

～歩くだけでも大変なんですね！～

社会福祉協議会の御協力で、高齢者疑似体験をしました。手や足に重りや装具をつけて、目には視野を狭くした黄色いレンズの眼鏡をかけて、杖を使って歩いたり、水をコップに入れたり、はしで物をはさんだりしました。

体験活動をしているときは、一生懸命取り組んでいたのですが、大変だという思いはそれほど抱けなかったようですが、装具や重りを外した途端、「ああ、すっきりした。」「ふう、大変だった。」等のつぶやきが聞かれました。

今回の体験を通して、年をとると、体が自由に動かなくなったり、目がきれいに見えなかったりと不自由なところが増えてくることが実感できたようです。最後に、「おじいさんにもっとやさしくしてやりたいです。」とか、「お年寄りの方を見かけたら、手伝ってあげたいです。」「体の不自由な人には、声をかけてあげたいです。」という感想が聞かれました。

会場の後始末は、子どもたちが率先して動く姿があり、思いやりについて学び、実践する喜びを味わったようです。

